



## 農の暮らし ~ 自給自足社会に向けて ~ 第5回

いのちを食べて生きている私たち。私たちの生活を支えている農のこと、そして自給自足の暮らしについて、もっと身近に感じてみてください。



### おひさま農園 岸元春さん

1998年に参加した高木さんの講演会がきっかけで、持続可能な平和な地球を作っていくために、自分ができることは何かと考え、鎌と鍬さえあればできる「自然農」の学びの会を、自分たちで立ち上げました。

自然農の川口由一さんにも指導に来ていただき、現在は「水戸自然農ネットワーク」となり、家庭菜園を自然農でやる方はもちろん、専業農家として独立する方も現れて、広がりを見せています。お世話役としてこれからも学びを深めていきたいと思っています。

### 農への目覚めはアサガオから

それは、事務室の窓をアサガオで日陰にしたことが始まりでした。日本一暑いといわれる埼玉県熊谷市の端に、勤務していた航空自衛隊の一室があり、真夏の日中は、分厚いコンクリートからの強烈な照り返しで参っていました。クーラーはなし、扇風機は熱風を送るのみ。何とかこの暑さをしのぎたいと、一斗缶に土を入れ、アサガオの種をまき、棚を作り緑のカーテンを作りました。日に3度の水やりは大変で、次の年はドラム缶を半分にしたもので栽培。それでも朝晩の水やりは必要で、3年目にはとうとう同僚たちとコンクリートをはがし、畑を作っていました。

今度はアサガオでなくブドウの木を植え、暑さをしのぎました。何より嬉しかったのは、甘いブドウにありつけた

ことでした。この頃、自然食の本や、有吉佐和子さんの「複合汚染」、福岡正信さんの「わら一本の革命」などに会い、どうしても自分で本物の食べ物をつくりたいとの思いが強くなりました。同時に自衛隊生活に希望を見い出せず悩んでいたこともあり、意を決して故郷へ帰農することにしました。

### 有機農業、自然農へ

福岡方式の粘土団子によるばらまき栽培は、2年挑戦しましたが、イネやムギは旺盛な雑草に負けてしまい、良くなる見通しもつかず、あきらめて断念しました。両親が続けてきた原木シイタケ栽培を手伝いながら、慣行農法から有機農法に転換、自然食を学び保育士をしていた恵美子と結婚、その後1男3女の子供に恵まれました。農業経営は、父と家内と3人で、埴菌数毎年約6,000本のシイタケ栽培(生シイタケはハウス周年栽培、太径木による乾燥シイタケは山で栽培)と、田んぼ5反、畑4反を耕作し、シイタケは集荷業者を通してスーパーに、米や野菜、雑穀、乾麺にした小麦やソバは、直売場や自然食店、共同購入グループに卸しています。

米や野菜は殆ど自給自足できますが、農業収入だけでは足りなく、現金収入を得るため、朝4時から家内と1時間ずつ新聞配達をしています。



### シイタケ栽培

シイタケ栽培は、冬、原木の伐採から始まります。樹齢15~30年位の檜や桐を立木で購入し、自分で伐採します。山仕事は寒中でも汗が出るほどで、冬の

期間に体が鍛えられ、夏場の暑さにも耐えられる元気の源になっています。埴菌は、生シタケ用は自動埴菌機を使用してビニルハウス内で、父がほとんど一人でしています。乾燥シタケ用は休日の子供たちにも手伝ってもらい、春の陽光の中、小鳥のさえずりを聞きながら、山で埴菌し伏せ込みます。山の上から眼下に見える道路を猛スピードで行き交う車を見ていると、もっとゆっくり生活できる社会でありたい、そのためにはお金を必要としない自給社会を創っていききたいと思えてきます。

山の木は、落葉した木の葉をさらってしまっても、毎年大きくなります。人間は収奪するだけですが、自然界は無償で恵みを施してくれます。山の神と畏敬していた昔の人たちの精神性が少しは理解できるようになりました。

## 小学校でのペットボトル米作り

昨年は、PTA会長を務める小瀬小学校に、地域の方が余った古代米の苗を寄付してくれたので、先生方と協議して全校生徒137名でペットボトル稲栽培を



することになり、指導を任せられました。

軽トラックで運んだ土を子供たちは、大はしゃぎしながら泥んこにな

っての田植え。夏休みの水やり、秋の稲刈り乾燥、千歯こきや足踏み脱穀機を使っでの脱穀、くり棒でのノゲ取り、箕や唐箕での選別、ピンやすり鉢での朮摺り精米、そして竹筒での炊飯、おにぎり作りと多くの体験をすることができました。

子どもたちは、初めて見るくり棒や千歯扱きなどを実際に使ってみて、その難しさに驚き、昔の人はスゴイ！！と感心すること然り。大型機械を使用してやるのとは違って、石油を使わないので、地球温暖化防止になることも理解してくれたようです。

今年は発泡スチロール箱での米作りに挑戦、収穫祭

には古代米の餅つき(親達も餅のつき方を知りません)を予定、今年も多くのことを学んで欲しいと思っています。

## これからの夢

現在の小中学生に将来何になりたいか聞くと、どの学校でも農業と答える子は皆無だそうです。これからの食料はどうなってしまうのでしょうか？企業が地下で人工的な光を当てて



育てたものを食べなくてはならなくなったら、今以上に病人、半病人が増えることは明らかだと思います。

共尊共生の安心できる平和な社会を創っていくため子供たちに持続可能な農業に夢を持ってもらえるよう、自然農業の学びを深め、大切さ、楽しさ、不思議さをいっぱい発見、伝えていきたいと思っています。

## みなさんお待ちしています

自然農学びの会(田んぼ)は、原則として、月2回(第2火曜と第4日曜)の共同作業。参加者は随時募集しています。

農作業や山仕事(植林・下刈り・伐採・しいたけ埴菌等)の縁農ボランティアも歓迎します。



### おひさま農園 岸 元春

〒319-2404 茨城県常陸大宮市国長 712 - 2

T/F : 0295 - 56 - 3633

e-mail : ohisamakishi@orange.zero.jp

TBS テレビ 金スマ「ひとり農業」の指導をしています

このコーナー - に登場していただける方を募集しています。自薦他薦を問いません。メールでご連絡ください。『地球村』事務局 mail: tusin@chikumura.org